

## 文献の示し方

経済学会では、皆さんの勉学意欲を促進することを目的として毎年度、学生懸賞論文を募集しています。懸賞論文を執筆するにあたって留意すべき点をまとめましたので、参考にしてください。

現在の懸賞論文の審査基準では、基本的に論文としてのスタイルに関する評点が50点、追加的な貢献に関する評点が50点となっています。追加的な貢献としては、以下の5分野を設定しています。

1. 理論的な分析をおこなっている。
2. 実証的な分析をおこなっている。
3. 文献学的な分析（外国語文献・日本語文献のサーヴェイ）をおこなっている。
4. フィールドワーク・アンケート調査、ヒヤリング（聞き取り調査）をおこなっている。
5. 歴史的な考察において貢献が見られる。

ところが、論文としての基本的なスタイル、注のつけ方や参考文献の明示といった基本的条件をクリアしていないために、すぐれた内容であっても評価が低くなってしまいう論文もあります。また、本文のどの部分について、どの文献のどのページ（箇所）を参照したかをきちんと明示していない場合、「剽窃（＝盗用）」と見なされ、「選外」扱いとなります。論文とは、オリジナルな議論・分析による貢献によって評価されるものなので、引用元を示さない論文は「失格」であり、引用元が明示してあっても他人の文章からの引用ばかりでは評価が低くなります。

なお、論文を引用した場合は、以下のように引用元を明示します。

（例文）北川は「…引用文…」（北川[2000] p. 30）と述べている。

この（北川[2000] p. 30）のうち、北川[2000]というのは、論文の著者名と発行年です。この場合、かならず論文の文末に参考文献一覧を載せ、そこには以下の方法にしたがって、完全な書誌情報を示します。

1. 日本語文献の場合（例として挙げている文献はすべて架空のものです）

・一冊の本の場合：

著者名（発行年）『書名』出版社。

例）北川幸義（2000）『日本医療の経済分析とその未来』大衆社。

・雑誌論文の場合：

著者名（発行年）「論文名」『雑誌名』第○巻第×号、XX－XX ページ。

※当該論文の開始頁と終了ページを示す。

例) 山中広重 (1988) 「1980 年代の沖縄の県財政：市町村合併の自治体財政への影響」『日本経済・財政学会年報』第 12 巻第 13 号、52-69 ページ。

・複数の著者が書いた論文が集められた本の場合

著者名 (発行年) 「論文名」、編者名 『書名』 出版社、XX-XX ページ。

※当該論文の開始ページと終了ページを示す。

例) 吉田 怜 (1999) 「ケインズ政策とケインズ主義：学説史的考察」、小田川良成編『ケインズを読み直す』創造社、53-69 ページ。

## 2. 外国語文献の場合 (例として挙げられている文献はすべて架空のものです)

・一冊の本の場合

著者名 (発行年), 書名 (イタリック=斜体にする), 出版社.

例) John Smith (1994), *Financial Analysis of Agricultural Capital Investments*, Baltimore University Press.

・雑誌論文の場合

著者名 (発行年), “論文タイトル,” 雑誌名, No. XX, pp. XX-XX.

例) Edward Robertson (2001), “The Adam Smith Problem revisited,” *European Journal of the History of Political Thought* (33: 2), pp. 345-369.

・複数の著者が書いた論文が集められた本の場合

著者名 (発行年), “論文タイトル,” in 編者名 ed., 書名, pp. XX-XX.

例) James Johnson (1990), “Money, Credit, and Economic Crisis,” in Donald McIntyre ed., *A New Economic Perspective of American History*, pp. 120-145.

・翻訳のある著書の場合

著者名 (発行年), 書名, 出版社 (訳者名 (訳書発行年) 『訳書名』、出版社) .

例) Henry Marshall (1987), *The World in Great Depression*, Strafford Press (木村和則訳(1999)『大不況期の世界』松竹出版)

日本語文献の場合、書名・雑誌名には二重括弧をつけ、個々の論文には一重括弧をつけます。外国語文献の場合には、書名・雑誌名はイタリック (斜体) にします。

なお、以上はあくまで一般的な文献の示し方にすぎません。各分野によって微妙に分権の示し方が異なるので、詳しくは自分が所属する演習(ゼミ)の担当教員に相談するとよいでしょう。